

# 孤島でパイパン真 っ白下着の義母と 長期間滞留

島へと向かう道のりは大嵐だったため  
二人も明確ではない。

ただ、二人とも互いの白いパンツとくび

れた腰にしがみついていた。

漂流 . . . . それは人でもモノでも

彷徨うように水中なり地上なりを流れることを意味する。

あてどなく . . . . .

目的はなく、いつのまにかだった。

しかし目的などないだけに

辿りついた時に急に生じるものがセックスなのである。

その快楽は大きく . . . .

お尻のプリッとした茶髪の、小柄でだけ  
どおっばいは程よく大きいハダカの義  
母と

突然戻れない野生でハダカの世界に入  
ってしまった俺たち……。

真っ黒の泥だらけの棒のような船首が

無表情で沖へと木の船を進め

無人島へ乗り上げたのがもう随分と前だ。

砂浜にその船は泥のように溶けてしまった。

俺と茶髪義理ママは孤島を探索するでもなく下着を脱いだ。

ひたすら抱き合い太ももを寄せ合い、赤ん坊を宿すことに夢中になる。

エッチへのエネルギーのためだけに

全てを捧げるのであるが . . . .

生きるためには食も . . . .

木の実を探し求めた。

しかし一定の間隔で島へ大きな鷲（わし）  
が来る。

そして夕方、クッキーを落としていく。

不気味なこと。そしてそれには副作用が  
あり

更に・・・・男女の行為をどこまでも登  
らせる。

(体験版は以上になります。ご読了あり  
がとうございました)